

# むさしの 紀行人

その時代を生きた証人が  
語る武蔵野の歴史

吉祥寺に住んで82年。  
昔も今も吉祥寺は、  
活気ある楽しいまち

大正9(1920)年に父親が  
ニューヨークの五番街で写真スタジオ  
を開きました。しかし、世界恐慌  
のあおりを受けて帰国。阿佐ヶ谷に  
新居兼店を持ち、昭和6(1931)  
年、私が生まれました。その後、昭  
和10(1935)年に吉祥寺へ移転  
し、以来、父、私、息子と三代にわ  
たつてこの地で写真スタジオをやっ  
ています。

活気があって楽しいまち。それが  
越してきた時の印象です。そして井  
の頭公園という格好の遊び場を得  
て、毎日のように出かけていました。  
その頃の公園は湧き水が豊富で、澄  
んだ水の中で水草がゆらゆら揺れて

## らかんスタジオ



昭和15(1940)年。鈴木さん一家と近所の子どもたち。  
(右から5人目の白いシャツを着た少年が鈴木育男さん)

JR吉祥寺駅北口。  
平和通りと吉祥寺通りが交差する手前に、  
長年にわたつてこの地で写真スタジオを営む  
「らかんスタジオ」があります。  
取締役会長の鈴木育男さんは昭和6年の生まれ。  
カメラとともに変わりゆくまちを見つめてきた鈴木さんに、  
このまちの歴史を語ってもらいました。



### 鈴木育男さん(86歳)

昭和6年阿佐ヶ谷生まれ。早稲田大学  
卒業後、東京写真短期大学(現・東京  
工芸大学)で写真を学び、昭和31年、  
家業である「らかんスタジオ」に入社。  
これまでに写真集『うつりゆく吉祥寺』  
(ぶんしん出版)『吉祥寺と周辺寸描』  
(らかんスタジオ)などを出版している。

いました。スジエビもたくさんい  
て、天ぷらにして食べていましたね。  
店は82年間、変わらずこの場所  
です。と言っても、いつとき三鷹の方  
へ移ったことがあります。それは戦  
争のせい。第二次世界大戦が激しく  
なり、国から強制疎開を言い渡され  
たのです。終戦間近の昭和20  
(1945)年4月のことでした。  
戦中、そして戦後しばらくは、商  
売は全くダメでした。それはそう  
でしょう。みんな食うや食わずとい  
う生活を送っていて、スタジオで写  
真を撮ろうなんていう余裕のある人  
いません。「子どもが生まれたから  
家族で写真を撮ろう」「記念日に写真  
を残そう」というのは、平和だから  
こそできること。そのありがたさに  
ついて、我々はもっと考えなければ  
いけないと思います。

現・吉祥寺通り周辺の定点撮影  
(鈴木さん撮影)



昭和27(1952)年



平成6(1994)年



平成22(2010)年



平成28(2016)年

カメラを持っているのは、  
珍しい時代。  
変わりゆくまちを撮影

吉祥寺は爆撃を受けなかった  
で、木造2階建ての家並みが戦後も  
ずっと残っていました。商売をして  
いる家の多くは、1階が店舗、2階  
が住居。隣組の意識が残っていて、  
みそ・塩・しょうゆの貸し借りなん  
てしょっちゅうでした。

カメラを持ってまちの写真を撮る  
ようになったのは昭和26(1951)  
年頃からです。新聞社からまちの写  
真の問い合わせが来るようになり、  
「撮っておかなければ」と思ったのが  
きっかけです。本業はポーターレ  
スタジオですから、あくまでも暇の  
ある時に。最初は職人さんの写真を  
随分撮影しました。桶屋さん、鍛冶

屋さん、ノコギリの目立て屋さん  
怖そうで、ちょっと気が引けて撮れ  
なかったな。店の屋根に上り、平和  
通りの「定点撮影」もやりましたね。  
その中で忘れられないのは、ハモ  
ニカ横丁に住む母子家庭一家を撮っ  
たことです。まもなくお母さんは白  
血病で亡くなってしまい、2人の子  
どもは行方知れずに。それが35年  
たったある日、お兄さんが店を訪ね  
てきました。一家の写真を載せた写  
真集を見せると、「お母さん」と言っ  
て涙を流していました。

再開発前の「サンロード」は「駅前  
通り」と言って、バスが走る道路で

昭和37年に都市計画発表。  
住民も積極的に関わり、  
今のまちの原型ができた

再開発前の「サンロード」は「駅前  
通り」と言って、バスが走る道路で

PICK UP SPOT

鈴木さんが市内のお気に入り  
スポットを紹介してくれました。

吉祥寺西公園

「ふとした時にこの公園を訪  
れ、2本の大木を眺めていると  
心がとても穏やかになります」

吉祥寺西公園(吉祥寺本町3-7)



した。北口から五日市街道へ抜ける  
唯一の道で、いつも車と人で大混  
雑。バスが来ると、電信柱のかけに  
隠れて通り過ぎるのを待っていたの  
を覚えています。また、平和通りに  
は商店街のアーケードがあって、S  
字に曲がっている道がなんとも言え  
ない情緒を生んでいました。

昭和37(1962)年に都市計画  
が発表されると、大騒ぎになりまし  
た。再開発されるまちの模型を見ら  
ると、コンクリートのビルばかりで自  
分の家がない(笑)。不安でしたが、  
道路の拡幅、幹線道路の整備、国鉄  
の高架化などにより、人と車がス  
ムーズに流れるようになりました。  
また、地元住民も積極的に関わり、  
「伊勢丹」「東急百貨店」といった集客  
力のある商業施設の誘致、地元商店  
街をリニューアルするなど、この時  
に今の吉祥寺の原型ができたと思っ  
ています。

この秋には、中道通りに「吉祥寺  
プティット村」が誕生します。きつ  
とおもしろい施設になるだろうと期  
待しています。こうした個性的な店  
が吉祥寺には似合う。これからも人  
が集まる活気あるまちであってほ  
しいですね。